

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>職員の話し合いの中から出来あがった理念で、『共に暮らす幸せ』を理念の一つに掲げ、地域密着型サービスとしての役割を確認している。</p>	<p>地域密着型になる前から作った理念であるので、「地域」をより意識していくことが重要と考えている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ホーム内に理念を掲げ、常に念頭において介護をするように心がけている。カンファレンスの際などには、自分たちの介護の道標として、判断の基準としている。</p>	<p>常にスタッフ内で地域密着型サービスの意義とグループホームの理念を確認していく。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族に向けては月に1回発行している『ふれあい通信』の中で、または家族会の機会にホームの考え方を伝えている。また運営推進委員の方には、年度の冒頭でお話をして理解を得ると共に、地域への橋渡しをお願いしている。地域向けの介護教室や、実習生受け入れの際にもできる限り触れるように心がけている。</p>	<p>地域の人たちに向けた努力を続けていく。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている</p>	<p>立地の問題もあり、日常的な付き合いを築くことが難しい。散歩していても人に会うことが少ない。現在はまず運営推進会議の委員の方から理解いただいて立ち寄っていただけようをお願いしている。</p>	<p>挨拶から実行し、顔見知りから馴染みの関係になれるように努める。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>食材の購入などに、地元の専門店や農協を利用している。JAのイベントや地元小学校の運動会に出かけたりしている。しかし、町の一員として参加するところまではいっていないのが現状である。</p>	<p>地域の一員として地域活動に参加する機会を増やしていくと共に、地域での役割を果たしていけるようにしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年からショートステイを行い、地域からのご利用もいただいている。また、実習生や交流学習の受入れ、認知症介護教室講師など積極的に受け入れている。通所に向けての検討をしている。		認知症対応型通所介護(共用型)実施に向けて具体化していく。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を開始する前に、資料を基に評価の意義を再確認する機会を作った。その上での自己評価に全員が関わられるようにしている。		職員の入れ替わりが多い時期があったので、理解の差・意識の差がある。皆が積極的に関わられるように制度全体から学ぶ必要がある。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動を理解していただくとともに、地域とグループホームの双方向的な話し合いの場を目指す。評価についての説明、評価結果の提示を行い取り組みについて理解を深めてもらっている。		内容に関して話し合いを行い、その結果が質の向上につながるのこれからだと考えている。運営推進委員の方々の目から見てグループホームを評価していただく機会を考えている。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、グループホームの広報誌『ふれあい通信』を複数部署に送り連携をもっている。通所を行うことについての相談など、市役所に出向き行っている。		「質の向上」に関して連携していける関係づくりを積極的に行いたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホーム内で権利擁護に関する勉強会も行った。必要な方には、助言したり、利用に向けた支援を行っている。現在、成年後見制度利用者1名、地域権利擁護事業者1名がいる。圏域グループホームの集まりでも講師を招いての勉強会を行った。		年に一度は行う勉強会のテーマとして、研修計画に加えていく。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などに参加したり、ホーム内の勉強会で学んでいる。『自分がされて嫌なことは虐待の可能性ある』という考えのもと、虐待の防止に努めている。		年に一度は行う勉強会のテーマとして、研修計画に加えていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご家族代表の方だけでなく、その他のご兄弟やご家族にも出来るだけ同席いただき説明を行っている。契約内容の確認だけでなく、グループホームでの生活でのリスクやターミナルについての考えも説明し、ご家族の意向や希望も聞いている。</p>	<p>ショート利用者との契約にも工夫をしていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の発する言葉を大切に考えている。言葉で表せない方でも、態度や表情などから意向を伺うことを心がけている。受け止めた情報は共有に努め、改善のためのカンファレンスを都度行っている。苦情が少ないことは単によい介護ができていいるとは考えない。</p>	<p>スタッフが気がつかない点、またスタッフには言わないこともあるかもしれない。運営推進委員の方々にもご協力をお願いして、利用者の思いを外に表せる機会を増やす工夫をしたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1度発行するお便り『ふれあい通信』において、グループホームの様子やご利用者の暮らしぶり、職員の異動などの報告を行っている。個別の様子や健康状態は都度ご家族に連絡・報告している。金銭管理は、法人の管理規程に基づいて、四半期に一回出納簿を送っている。</p>	<p>「通信」はキーパーソンのご家族と、希望されるご家族に配信しているので、その他のご家族から、職員の異動を知らなかったという話も聞いた。グループホームの理解のためにも広く発信していく必要があるかもしれない。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情申し立ての箱を設置し、その他の苦情相談窓口も契約時に説明を行っている。その他に家族会を設け、会長が相談窓口を受け持ってもらっている。家族会会長は、運営推進会議の委員も受けていただき、家族の代表者として意見をいただいている。</p>	<p>実際に家族会から苦情が上がってくることはほとんどない。苦情が上がらないことは、苦情がないこととは違うと認識し、より一層サービスの向上を目指したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>主に毎月開催するスタッフ会議の機会に、運営に関しての方針や、具体的な利用者の受け入れについて職員に説明を行うと共に職員の意見を聞き、皆の総意を基本として決定している。管理者や運営者の意見を押し付けることなく、一人ひとりが考えるグループホーム運営を目指している。職員と話す機会は最大限取りたいと考えている。</p>	<p>スタッフ個別の面談を定期的実施するように努めている。個々の職員の考えを個別に把握する機会として、また皆に同じ目的で仕事ができるように今後も実施していきたい。不満や苦情を解消して、より働きやすい職場を実現していきたい。</p>

グリーンクリスタル クリスタルONE

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		グループホームらしい細かな対応を続けていきたい。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		ここ1年、スタッフの入れ替わりが大きかったので、レベルに応じた研修を計画的に行えるようにしていきたい。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		ネットワークを広げて域と共に、内容をより高め、相互評価の実施につなげていきたい。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		定期的に個人面談などを行い、悩みや不満をためないようにしていったり、他のグループホームとの交流によって、ストレスの軽減を図る。規則どおりに休憩時間が取れないが、少しでも仕事から離れられる時間を設けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	グループホーム独自の職員の自己評価を昨年12月に実施し、それを基にして個別の面談を行い、管理者と職員の認識の差を埋め、自己の長所短所を把握し、課題と目標を明らかにしている。また職員の資格取得を活かすように、状況に応じて施設内の人事異動を検討している。		事業所内部の評価は継続して行い、目標や課題を明確にしてケアに取り組めるようにしたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	相談から、できるだけ詳しく本人から情報を集めるよう「聴く」ことを大事にしている。本人の考えや趣味趣向など、本人の言葉も大事にしている。本人の不安や混乱も考え、徐々に環境に慣れていくことができるように、常に本人との会話をするよう心がけている。		現在ショートステイが可能となっており、通所介護の導入も検討段階に入っている。様々な形態から馴染んでいただき、不安を解消して信頼関係を築いていきたい。
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	家族からも話をよく聞き、本人の思いと家族の思いの違いを知り、信頼関係の構築を考えている。家族だけから話を聞く機会も多くもち、本音をくみ取るようにしている。聞く姿勢を一番に大事に考えている。		複数回の面談の機会を持ったり、同居家族以外の話を聞くなどして、幅広く意向をくんでいく努力を続けたい。
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満室の時に、相談や申し込みを受けても、そのままにせず、在宅介護支援センターと協力して、その時の状況に応じたサービス情報を提供したり、近隣のグループホームに連絡を取り、紹介をしたりしている。場合により、ショートステイとして受け入れることもできる体制を整えた。		長野圏域のグループホームはネット化された。今後須高地区の中で困難を抱えている人の情報を共有していくことが必要。通所とショート事業展開により、緊急時の体制を整えられないか検討していく。複合施設の利点を活かし、調整を図っていく。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅からの利用者には、昼間だけの利用からでも可能なことを伝えて、本人もご家族も不安なく馴染んでいけるような提案も行っている。複合施設内のケアハウスからの入居者には、日頃からお茶を飲みに来たり、行事参加などの交流により、馴染みの関係づくりをしている。入居に際しても、ケアハウスの居室をしばらく残し、本人の様子を見ながら対応するようにしている。		現在、ショートステイが可能となっており、通所介護の導入も検討している。日頃から、様々な形でグループホームを利用していただき、次第に馴染んでいく延長に宿泊や入居があるような取り組みを行ってきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>介護する側とされる側を作らないということを、日頃からスタッフ間で確認をしている。一緒に生活する仲間として、同じ時間と空間を共有する者として、ともに喜びともに楽しむように心がけている。また、本人の力を発揮できる場面を作っていくことを重要と考えている。会話の中で、スタッフのほうに慰められたり、励まされたりすることも多い。</p>		<p>高齢化、重度化していく利用者でも、サービスを提供する側とされる側だけの関係に陥らないように心がけていきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族から頂く情報を大切に、または大切にしていることを家族に伝え、ともに支援を考える姿勢を持っている。ケアプランの中で、可能な限り、家族に担ってもらう役割をできるだけ具体的に盛り込むようにして協力や参加を促している。</p>		<p>ご家族とより対等の関係で、利用者の支援を考えていくことを進めたい。訪問いただいた折に、本音で語り合い協力体制をとれるようにしていきたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>「家族にしかできないこと」を家族に理解していただき、スタッフはそれを支援する姿勢をとっている。本人と家族が関わる機会を多く採っていただけるような機会を考えたり、それを支援したりしている。家族の関係、それぞれの思いは、基本的な情報として、スタッフは共有している。</p>		<p>家族関係に配慮しつつ、よりご家族の役割を考えていただく機会を増やしたい。家族少し離れた関係になって見えてくるものもあると考え、家族の関係を深めていただくようなグループホームの役割を果たしていく。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家に帰ったり、それまで出かけていた習慣を大切に、ご家族にも理解いただいて協力を仰いでいる。日々の会話の中にも、なじみの場所や人の名前を話題として提供し、関係を途切れさせないように考えている。</p>		<p>高齢化、重度化によりなかなか難しくなっているが、より機会を増やせるように取り組みたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>9名の利用者同士の関係は、それぞれ利用者同士で築いていくものであり、職員はそれを十分把握していくことが大事だと考えている。必要以上の介入を避け、それぞれの人間性や長年培ってきた力、現在の持っている力を活かして関わり合いを持っていけるようなしえんを考えている。</p>		<p>認知症のレベルの違いにより、孤立する利用者がないように配慮していく。排除されてしまうのではなく、助け合って暮らしていけるようなグループホームにしたいと考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>32 関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>施設内で住居を替わった利用者には、会うたびに声をかけたり、可能であればグループホームに来てお茶を飲んだり、こちらの散歩のときに、利用者同士あっていただいたりしている。他施設に移ったご利用者のご家族が、ボランティアを継続していただいたこともあった。亡くなられた方のご家族が、その後も関係を継続していただいているケースもある。</p>		<p>関係が継続できるのは、まれなケースかもしれないが、今後はご家族にこちらの意向を伝えて、継続的なフォローを考えていきたい。特にショート利用者は、その場限りでなく、関係を継続していくことを大事にしていきたい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
<p>33 思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式によるケアマネジメントを取り入れて、本人の意向を汲み取る努力をしている。生活歴を基に本人の希望や意向掴む努力をしている。利用者の立場や目線を共有し、本人の言葉を大切にし思いを探っていく。チームでカンファレンスを行い、様々な視点から検討を重ねている。</p>		<p>本人からの言葉を大切にし、より本人の思いや意向を把握し実現していけるような仕組みを作り、積極的な取り組みを行っていきたい。</p>
<p>34 これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に面談を行ったり、実際に生活している場所を訪ねて、本人と家族や関係者から、情報を収集し把握に努めている。情報はファイルにまとめ共有し、様々な角度からこれまでの暮らしや人生やその人らしさをつかむ努力をしている。</p>		<p>入居後、日々のかかわりの中から掴んだ情報が、共有されてケアに反映されるような仕組みを再検討したい。</p>
<p>35 暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>1日の生活リズムを把握し、利用者の様子や言葉の記録をとることを重要と考えている。また担当者が中心となって情報収集を行い、カンファレンスの機会などを活用して、ご利用者の状況を把握し、共通の認識を持って介護に当たれるように心がけている。</p>		<p>入居してから、これまでの状況の変化がわかり、これからの生活支援に活かせる仕組みを作っていく。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
<p>36 チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者が中心となって、アセスメントからケアプラン作成へとチーム全体が関わっている。ご家族の意向も反映させ、可能な限り本人の意向も汲み取ったものにするように努めている。計画策定に当たっては、現在センター方式を参考を取り入れてアセスメントを行なっている。</p>		<p>プランのためのプラントにならないように、日々の介護の中での気づきを大切に、それが反映できるようなプラン作過程を現在考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況が変われば、見直し時期に関係なくケアプランを作成しなおしている。状況の変化については、日々カンファレンスを行い、必要に応じて短期(1週間単位から)のプランも策定するようにした。短期プランも1週間単位で評価を行っている。 定期では、3ヶ月に1回の評価を行ない、6ヶ月で改定を行うようにしている。		日々の介護とケアプランを連動させていく記録方法や、状況に応じてきめ細かくプランを見直していくようなケアマネジメントを検討中。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は日々の生活の様子を(特に利用者の気持ちの表出を中心に)健康管理記録は利用者の健康を客観的に把握するように、利用者ごと個別に作成して、その情報がケアスタッフに共有できるようにしている。特に変化のあった事項についてはカンファレンスを行い、それを基にプラン立案につなげている。		今後も工夫を重ね、しっかりとした情報把握と共有に努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師勤務による医療連携体制を整え、ターミナルケアも実践している。地域に向けた多機能化を目指しており、昨年度からショートステイの機能を追加した。現在、通所に向けたモデルも実践しており(ケアハウス利用者の受け入れなど)通所機能を付加した形で地域の認知症介護の一翼を担いたいと考えている。インフォーマルな形での、複合施設の利点を活用することも行なっている。		ニーズに応じた多機能性を生かせるよう、フォーマル・インフォーマルな支援の体制を考えていきたい。形に囚われることなく柔軟な対応が出来るようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練への参加、ボランティアによる催し、手伝い、地域の保育園・小中高生との交流などを行っている。		「本人の意向や必要性に応じて」を考えて、真に必要な地域資源生かすように考えていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具利用、リハビリ方法、鍼灸マッサージの利用を相談したりしている。ショート利用者の情報交換を含めて他事業所のケアマネジャーとのやりとりも増えている。		どんなサービスがご利用者のグループホームでの生活に活用できるか、広く検討していきたい。

グリーンクリスタル クリスタルONE

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員に加わってもらったことによって関係は深まったが、日頃から協働するところまでは至っていない。アドバイスをもらったり、問い合わせを受けたりをしている。		成年後見制度利用や、地域ネットワークづくりに関して協働していけたらと考えている。運営推進会議での関係を基盤に連携を図っていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を継続していくことを勧めると共に、当グループホームと複合施設の関係や医療機関との関係を説明し選択していただいている。また、その後の状況に合わせて変えていくことも行っている。以前からの主治医を継続している方もいらっしゃるが、グループホームの協力医が主治医になっているケースが多い。		入居まで認知症状を見てきた医療機関との連携を図っていくメリットを家族に承知していただき、ご家族の協力をお願いしていく。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在主治医は内科医だが、必要に応じて専門機関につないでいくようにしている。地域の中で相談できる専門機関を作っている。		専門医とのよい関係を築いていきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を1名以上確保することで、医療連携体制を整えている。日常の健康管理、服薬の管理、医療機関との連絡、非常時の体制をとっている。また、複合施設の利点を活かしてバックアップしてもらえような体制をとっている。		今後もこの体制を維持し、スタッフの知識、技術、判断力の向上に繋げていきたい。介護職員が安心して働けるような医療支援体制を作る。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の場合多くは協力医療機関である県立須坂病院で、地域連携室を通じて利用者の状況をつかむようにしている。認知症のご利用者は、入院によるダメージが大きいことを最大限考慮し、情報の提供を行うと共に、入院期間中の支援も考えている。入院後の生活の準備を整え、そして可能な限り早期に退院し、元のグループホームでの生活が継続できるようにしている。		関係機関と調整を重ね、早めに対応できるように心がける。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制をとるにあたり、ターミナルに関する指針を作成し、新規に入居する場合契約時に説明を行っている。その状況になった時は改めて関係者と話し合いを持っていく。ターミナルに関するケアプランを作成し、方針を確認していくが、ご家族の意向は変ることがあることを考え、都度話し合いをもっていく。		看取りについては、その時その時の様々な状況を皆で検討し、総合的な判断の基に方針を出していく。判断の理由を明確にし記録に残していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>チームの共通した意思を大切にしていけるよう、話し合いを重ねていく。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>あまり情報提供を求められることは多くないが、的確な情報提供を行えるようにしていきたい。また、その後のフォローも行って、生活がスムーズに移行できるような協力をしていきたい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>「個人情報保護」の理解は、今後の勉強会などで継続して取り上げて重要性を確認していく。記録物の管理などをもう一度見直していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>認知症介護の基本の項目のひとつだと考えているので、よりいっそうの質の向上を目指したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にしたケアを心がけている。「業務」を優先せず、利用者の生活を優先し、今すべきことを考えてケアにあたるように心がけている。共同生活と集団生活の違いを理解し、個々のペースやパターンを把握して尊重し、可能な限り個別の対応を心がけている。		認知症介護の基本の項目のひとつだと考えているので、よりいっそうの質の向上を目指したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の着たい服を選択したり、着られるように支援している。ご自分で選ばれる方でも、季節が分らなくて不適切な服になる場合などは、本人のプライドを重視しながらフォローしていく。理美容は、施設に来るボランティアの業者を利用しているが、理・美容の選択をしていただいたり、カットの長さなどに配慮して、本人にあったおしゃれができるようにしている。		昔からの馴染みの店に行くということが難しい場合が多いが、近所の美容室が協力を申し出ていただいているので、施設外での理髪も行っていきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を生活の中で重要な要素だと考えている。準備や片付けはご利用者が率先して行っていただけるようスタッフが様々工夫している。ご利用者の方から「やるよ」という声をかけていただけるようにしている。食事は利用者スタッフが一緒にテーブルを囲んで食べている。席の配置に工夫を凝らし、楽しく会話をしながら落ち着いて食事がとれるように心がけている。		介助が必要な方が増えているが、一人ひとりの能力に合わせた関わりを考えていきたい。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病気などにより制限がある場合を除き、個々の嗜好は大切にしている。日常的に飲酒・喫煙される方はいないが、行事の際にもお酒を楽しんでいただくようにしている。広告を見ながら好みを探り、提供できるようにしている。		事業所側が提供する機会を作らないから、行わなくなったということがないようにしたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンに合わせたケアを基本としている。必要に応じて、集中して排泄状態のチェックを行い、トイレ誘導時期などを検討し、できるだけトイレでの排泄ができるようにプラン化して支援している。安易にオムツ類の使用にならないように、最善の方法を常にカンファレンスしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ本人の希望を考慮して、入浴時間や回数を決めている。健康状態の配慮や事故防止に気をつけてながら、できるだけ本人がゆったり入れるように見守っている。身体的、精神的に入浴に困難を抱えている方には、時間をかけたり、2名で介助したり、足浴・清拭も取り入れて、安心して安全に入浴できるように配慮している。		よりきめ細かく、対応していけるように心がける。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンの中で、睡眠や休息が取れているかを考えている。夜間の巡視時等に睡眠状況を観察し、安眠を阻害する要件を取り除くようにしている。不安な気持ちがあれば、話をしたり、寄り添ったりして休まれるまで一緒に過ごすこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりの出来ることを見出して役割を持っていただき、それを自信や活力につなげる取り組みを行っている。一緒に行ったり、職員に教えたり、それに対しては感謝の言葉を伝えている。生活暦の中から、今でも可能なことを提供することによって主役となれる場面を作っている。施設に訪れるボランティアの方々のなじみの場所でのイベントが気晴らしになることも多い。		重度化している方が多いけれども、行動範囲が狭くなってしまわないように心がけたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金は、ご家族の了承のもとに自己管理している方もいる。その他の方でも、個々の財布を用意して、自分のお小遣いとして買い物をしていただいたり、食材購入の際に、支払いを行ってもらったりしている。しかし、近所に店がなく、日々金銭を使う環境にない。		出来るだけ機会を増やしていく。
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の状態や、希望を取り入れてホーム周辺への散歩や施設内の散歩を行っている。その他、買い物やドライブの支援を行っている。買い物は、お茶を飲みながら広告を見て、急に出かけることもある。地域のお祭りを見に行くこともある。		出来るだけ機会を増やしていく。

グリーンクリスタル クリスタルONE

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画を作り、四季折々に様々なところに出かけていく。外食は、ご利用者の状況に合わせてグループごとに出かけるようにしている。外出や行事の折にはご家族の参加をいただきながら、ともに楽しんでいただけるように考えている。自宅やなじみの場所へも家族の協力で出かける方もいる。		個々の希望を、ご家族と協力しながら実現させていく。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人とご家族の意向を聞いて、それに沿って援助している。ご家族や知人からの電話は歓迎している。また、こちらから手紙を書く支援も行っている。ご家族に協力いただいて、返事を書いていただき文通しているケースもある。年賀状はそれぞれが可能な範囲で係りながら書き、毎年ご家族を中心に送っている。		重度化したことにより、安易に機会が少なくならないようにする。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たち が、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間や面会人などの制限は全くない。外出・外泊も自由で、宿泊も可能である。ご家族や関係者には、できるだけホームへ足を運んで欲しいと話している。ホーム内では、自分のお部屋やホール内お好きなどころで自由にお過ごしいただいている。行事のときは、日頃来られないご家族もいらっやって、訪問のきっかけになっている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを、職員全員で確認しあっている。勉強会のテーマとしても取り上げ学んでいる。直接的に身体を自由を奪うだけでなく、施設や、本人の意思を無視した誘導や行動制限なども身体拘束となると理解して取り組んでいる。		定期的に勉強会で取り上げ、意識のより向上を行なう。
	鍵のかかっている空間にいる異常さを職員は理解し		

グリーンクリスタル クリスタルONE

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>運営推進会議を通じて、近隣の方の協力を仰ぐ方向で話を進めている。また、駐在所、消防団とも協力体制を整えていきたい。</p>

グリーンクリスタル クリスタルONE

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日勤時間帯は複数名の職員が連携を取り合いながら、利用者の安全確保と所在確認に努めている。居室内での転倒の危険が高いご利用者は、プライバシーに配慮しながら、最低限のセンサーにより、動作を把握している。夜間は、定時巡視と、センサー音、職員の場所の工夫により、利用者の動向の把握や必要時の対応ができるようにしている。		現在は離設よりも転倒の可能性の高いご利用者が増え、見守り・介助のケースが多くなっている。職員の連携ときめ細かい対応を行っていく。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	なるべく排除しない方向で考えている。個人で管理できるかどうかの見極めが大切大切と考えている。全体では、薬は施錠できる保管庫、洗剤や薬剤等は安全な場所を考えて保管している。施錠すべきところや保管すべき場所などは確実に守れるように心がけている。刃物を扱う際には職員が付き添い、安全を見守るようにしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ会議や勉強会でも防災訓練・リスクマネジメント・救急救命・医療知識などを学んでいる。インシデントレポートを作成し、集計・分析し防止に役立てている。消防、離設、緊急時などのマニュアルを作成しており、緊急時に備えるとともに、意識の向上を図っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習に参加したり、スタッフの勉強会で行ったりして、心臓マッサージ・人工呼吸・AEDなどの実技を含み学習している。緊急時の職員体制なども整備しており、必要な職員がいち早く駆けつけることができるようになっている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年に2回、複合施設全体の夜間と昼間想定での防災訓練を実施し、地域の消防団等の方々も参加していただいている。利用者本人も参加している。その後のスタッフ会議などで、グループホームが出火元になった際の初期対応について話し合ったり、設備面での工夫をしている。運営推進会議を通じて、協力の要請も行なった。地震により、連絡が取れなくなったときの取り決めも行なった。		運営推進会議を通じての地域との協力体制づくりを進める。月に一回何らかの防災訓練を行なうようにしていきたい。ホーム独自の備品整備も行いたい。
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	グループホームでのその人らしい生活と、それに伴うリスクについては、入居前から家族等に説明を行い理解を得ている。状況の変化に応じてその都度説明と理解を得ている。安全を優先し、拘束や服薬による管理を望んだ家族もいたが、認知症の理解やその人らしさを大切にする取り組みを説明し理解を頂いてきた。リスクを考えた上でその人らしい生活をすることを支援したい。		今後もこの方針で実践していきたい。その時その時で状態の違う利用者のリスクを見極める力を身につける取組を行なう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日バイタルチェックを行い、服薬、食事摂取量、排便の有無などを含め健康管理表をつけることによって、異常の早期発見に努め、看護師・医師への連絡を行ない早期対応を心がけている。</p>	<p>一人ひとりの異常がわかるためには、その人の『普通・いつもと変わらない』をスタッフ全員がわからなければいけない。看護師を中心にこなっている医療的な勉強も今後続けていく。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>健康管理表に一覧にし、皆がわかるようにしている。処方の変更される場合は、わかりやすく表を訂正しておく。薬はそれぞれの利用者に合わせた支援方法を取り、服薬状況を健康管理表に記録し、確実な服用に繋げている。利用者の状況は、個人のケア記録に記入し、状態を確認している。</p>	<p>より工夫をしていく。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>身体状況、中でも便秘が認知症状の憎悪につながることをスタッフは理解しており、個々に合わせて排便のチェックとコントロールを行っている。適度な運動を取り入れたり、牛乳やヨーグルトを摂ったり、食事内容に工夫をするなどして日頃の便秘予防に努めている。薬によるコントロールが必要な方は、様子をこまめにチェックして医師に相談しながら、看護師の指示により調整を行っている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>本人の習慣や力に応じて、口腔内の清潔の支援を行っている。歯磨きのための声掛けや見守り、義歯の洗浄など必要に応じたケアを行っている。重度化した場合は、スポンジブラシなどを利用してスタッフが関わることもある。義歯の洗浄の際は洗浄液の管理に注意するとともに、義歯を預けたことによる不安や不穏状態に注意をしている。</p>	<p>毎食後は出来ていないので、検討したい。歯科医に往診を依頼できたので、治療と指導を受けていきたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>健康管理表により、食事量や水分摂取量のチェックを行っている。個々の状態に応じて、食形態を工夫したり、栄養補助食品を利用して、栄養摂取量やバランスに気を配っている。食事時間や回数にこだわることなく、個々に応じて支援している。</p>	<p>複合施設内の栄養士の定期的にチェックを依頼する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	複合施設のマニュアルとそれに準じてグループホームのマニュアルを作成し、勉強会も行っている。スタッフは日頃から感染症防止に努め、手洗い、うがいの励行を心がけている。		都度チェックと見直しを行なっていく。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗い乾燥機を併用することによって、食器や調理器具の殺菌を行い、衛生管理に努めている。食材発注はこまめに行い、食材の賞味期限切れが生じないように管理している。新鮮で安全な食材を使うことを心がけている。		都度チェックと見直しを行なっていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、プランターや花壇を使って草花を植えたり、四季折々の飾りで季節を演出し、入りやすい雰囲気作りをしている。(こいのぼり、七夕飾り、クリスマス飾り、正月飾りなど)段差を無くした作りになっており、靴の履き替えの安全確保のためベンチや椅子を置いている。		日々の介護の中で、当たり前のようになってしまう、後回しにされそうな課題だが、新鮮な目で意識的に見ていくことを続けたい。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾りをできるだけ利用者とスタッフが協同で作成して楽しむようにしている。食事作りを台所だけでなく、居間で行うことによって、皆が参加できたり、においや音で興味をそそられたり、食欲が出るように考えている。音楽やテレビなどは、利用者と相談してつけたり消したりしており、不快な音や刺激がないように心がけている。		日々の介護の中で、当たり前のようになってしまう、後回しにされそうな課題だが、新鮮な目で意識的に見ていくことを続けたい。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・食道には様々なテーブル、椅子、ソファを配置し、思い思いに過ごせるようにしている。また廊下や踊り場にはソファを配し、一人で過ごしたり、気の合った仲間とくつろげる場所となっている。ベランダには縁台が置いてあり、天気の良いときは外で過ごすこともできるようになっている。		ご利用者同士の関係・安全に配慮しながら、穏やかに過ごせる環境を作っていきたい。

グリーンクリスタル クリスタルONE

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際しては、本人の使い慣れた馴染みのあるものを持ち込む効果を説明し居室作りしている。仏壇を置いていたり様々な写真を飾ったり、使い慣れた家具を置くなどして、それぞれに工夫を凝らしている。ご家族には、その都度ご協力をお願いしている。		ご利用者一人ひとりに合わせた居室をご家族と相談しながら作っていききたい。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝窓を開けての換気は基本と考えている。気になるにおいのある居室は、ご利用者のプライドや安全性に配慮して、消臭剤を置いたり、こまめな換気でおいがかもらない様になっている。温度は空調により管理することが多いが、各居室に温度計を設置し、常に温度・湿度を気にして調節している。極端な温度調節はせず、室内でも季節を感じるできるように考えている。		個々に合わせた居室環境を整えていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体がバリアフリーの作りになっていて、随所に手すりも設置され、高齢者が安心して移動できる作りになっている。車椅子の利用も可能となっている。ベッド柵を設置したりしている。共用のトイレや浴室も全体の安全を考慮して、補助的な手すりを設置している。背の低い利用者に合わせて、炊事台を作るなど、工夫を行っている。		個々の状況に合わせて工夫をおこなっていく。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の入り口が見えにくく、同じようなつくりなので、写真入のドアプレートを作成して居室が分るようにしている。状況が変わったり、混乱が生じた場合は、カンファレンスをこまめに行い、利用者の視点で考えて様々な方法を考え、スタッフが共通の対応ができるようにしている。		個々の状況に合わせて工夫をおこなっていく。
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダから庭まで段差なく行けるようになっており、車椅子でも外に出られるようになっている。ベランダでの洗濯物干し、畑や花壇の手入れ、芝生の草取りなどを行ったり、ベランダの縁台で過ごすこともある。		季節の良い時期は、日常的に外で過ごせるような工夫を増やしていきたい。散歩も遠出できなくなっているので、ベランダなどで過ごすことも増やしていく。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所に つけること)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グリーンクリスタル クリスタルONE

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設からまもなく7年を迎えるグループホームです。「笑顔の輪」「共に暮らす幸せ」「心安らかに暮らせる日々」を目指すことを理念に掲げ『生きる・活きる』ことを支援していきたいと考えています。ご利用者の入れ替わりも随分あり、何人もの方々とお別れも経験してきました。一つひとつの経験を重ねながら、戸惑や悩みや喜びや楽しみを感じながら今があります。「認知症の方々の気持ち」を常に考えながら、ご利用者を第一に考えられるグループホームでありたいと思っています。そのためには、ご利用者に、又はスタッフ同士で「耳を傾けること・話し合うことを大切にしたい」と考えています。また、グループホームの多機能化も検討し、地域に暮らす認知症の方々のニーズに対応できるグループホームでありたいと思っています。